

ハローバーメッセ 2018

Japan Pavilion For Connected Industries

結果報告

■設置目的：

各国との連携強化をはかると共に、日本が掲げる『**Connected Industries**』を**世界に発信**し、日本のプレゼンス向上を図る。

パビリオンでは、IoT関連技術、サービスを有する**日本企業**の展示を介して技術力の高さを訴求し、**グローバルなビジネス展開を支援**する。

■パビリオン概要：

- 主催：ロボット革命イニシアティブ協議会
一般社団法人 日本能率協会
- 後援：経済産業省、中小企業庁、JETRO
- 協賛：別表参照
- 参加規模：50平米
- 参加号館：ハノーバーメッセ2018 Digital Factory, Hall8



Hall8はインダストリー4.0、IICをはじめIoT推進イニシアティブが集結する好立地。それもよりブースは連日盛況を得た。

後援（順不同）

経済産業省
 中小企業庁
 JETRO

ブース出展（五十音順）

- ・ i Smart Technologies 株式会社
- ・ アビームコンサルティング株式会社
- ・ 株式会社 IBUKI & 株式会社 LIGHTz（合同）
- ・ 東海エレクトロニクス株式会社
- ・ ミツイワ株式会社
- ・ 株式会社マクシスエンジニアリング

協力（順不同）

旭酒造株式会社
 ラピスセミコンダクタ株式会社
 ローム株式会社

<ロゴサポーター> 順不同

富士通株式会社
 株式会社安川電機
 ヤマザキマザック株式会社
 東芝デジタルソリューションズ株式会社
 株式会社日立製作所
 三菱電機株式会社
 ファナック株式会社
 ダッソー・システムズ株式会社
 株式会社ジェイテクト
 株式会社LIGHT z
 三菱重工業株式会社

<協賛> 順不同

一般社団法人 日本機械工業連合会
 一般社団法人 情報通信ネットワーク産業協会
 一般社団法人 電子情報技術産業協会
 一般社団法人 日本産業機械工業会
 一般社団法人 日本電機工業会
 一般社団法人 日本ロボット工業会
 一般社団法人 日本電気計測器工業会
 一般社団法人 日本電気制御機器工業会
 IVI(Industrial Value Chain Initiative)
 一般社団法人 Edgexcrossコンソーシアム

■ 出展への期待（出展者の声）：

1) 自社技術のアピール、プレゼンス向上、 2) 海外の拡販、 3) メディアから日本国内での情報展開、周知。 4) 世界の技術動向を調査

■ 出展の成果（出展者の声）：

- ・EU系の反応は薄かったが一方で、東南アジア系の参加者には興味を持っていただいた。次のビジネス展開が期待できるものもあった。
- ・今後の営業につなげられるクライアントを得ることができた。
- ・技術コンサルタント等に興味を持っていただいた。
- ・日本企業の方々の来場者も多かった。
- ・欧州来場者は50%程度で、来場者の地域別構成が世界各国である前提で考える必要があった。

■ その他展示会全体を見て（主催者として）

- ・日本とドイツは産業構造に類似点があるが、異なる進め方を取っていると感じた。日本は各社がそれぞれのやり方で進めている。一方、ドイツはSiemensのような大企業が中小企業を巻き込んで進めていると理解した。
- ・ものづくりの標準化を進めていくに当って、国の支援/推進が必要になってくる。その点で、Hannover Messeのような世界最大の産業見本市やインダストリー4.0概念の浸透などドイツに一日の長が感じられた。
- ・セミナーの数が多く、市場の将来的なビジョンを踏まえた自社のPR等、質の高い講演が多かった。日本は技術寄りなセミナーが多く、ビジョンを提示できる人間が少ない。

■ まとめと今後に向けて（主催者として）

- ・ほとんどの企業より、「是非、出展したい」「出展を検討したい」との回答をいただいた。
- ・出展企業間で一体感あるソリューション展示も考えたい。